

# ベラルーシ公開情報取りまとめ

(4月20日～5月3日)

2019年5月10日

在ベラルーシ大使館

## 【主な出来事】

- 渡辺博道復興大臣(日本・ベラルーシ友好議員連盟会長)とドロフェーエヴァ議会代表者院(下院)議員との会談(4/20)
- ルカシェンコ大統領の北京訪問(一帶一路フォーラムへの参加, 各国要人との会談)(4/26)
- 駐ベラルーシのロシア大使の解任(4/30)
- ルカシェンコ大統領発新天皇陛下の即位に際する祝電(5/2)

## 内政・外交

### 【ルカシェンコ大統領動静】

#### ● 元リトアニア大統領と面談

5月2日, ルカシェンコ大統領は元リトアニア大統領で現欧州議会議員ロランダス・パクスス氏と面談。ルカシェンコ大統領は, 今回のパクスス氏の訪問をオストロヴェツ原発等の現存する問題の議論開始の絶好の機会と捉えている一方, 貿易経済関係が両国間の礎になっていることを強調。歴史を辿ると両国は一つの国家であった過去もあり, その過去を基に今後の両国の友好関係の構築に努めようと発言。

(5/2 大統領公式サイト)

#### ● 欧州地方自治体会議長と面談

4月29日, 欧州地方自治体会議長アンデルス・クナプ氏がベラルーシを訪問し, ルカシェンコ大統領と面談。ルカシェンコ大統領からは, ベラルーシが地方自治体の独立性向上に向かって前進していること, 地方自治体とEU内各組織のさらなる交流が自治体の独立性を高める上でよい援助になり得ることを発言。アンデルス議長からは, ベラルーシ政府が地方自治体振興に関心を示しており非常に喜ばしいと発言するとともに, 欧州地方自治体会議はベラルーシに対し専門家養成を中心とした協力を行う準備ができていと伝えた。

(4/29 大統領公式サイト)

#### ● ムハンマド・ビン・ラシド・マクトム・アラブ首長国連

邦副大統領(首相, 国防大臣, ドバイ首長国のアミールを兼務)と会談(4/26, 北京)

ベラルーシとアラブ首長国連邦の協業進展に向けた協議を行った。

(4/26 大統領公式サイト)

#### ● アレクサンドル・ブチッチ・セルビア大統領と会談(4/26, 北京)

ルカシェンコ大統領からは, ベラルーシ・セルビア両国間には政治的問題は一切無く, 国際関係においても同様の視点を持ち合わせていると強調。一方で, 経済関係においては, 二国間貿易高はさらに増えていくべきであると指摘。さらに, セルビア訪問を控えていることを公表し, 訪問時には, 二国間の合同会社設立と発展といったイノベティブな議論ができることを信じていると発言。さらに軍事分野における協業についても言及。ブチッチ大統領からは, 両国間関係が良好であること, また二国間貿易拡大に向け力を入れていく必要があることを同意するとともに, 軍事分野での協業に関し謝意を表明。

#### ● 一帶一路フォーラムにて演説(4/26, 北京)

ルカシェンコ大統領は演説で, デジタル社会の到来とともに情報と資金の流れが加速しているが, 貿易拡大には未だ様々な障壁が残っていることを指摘するとともに, 一帶一路参加国の協業が共通の課題であることに言及。ユーラシア大陸における交易の中心地に位置するベラルーシにとって, 国際貿易における

正当で、平等かつ透明性の高いシステム構築に関心があることを表明。特に「輸送路のデジタル化」、「乗用車国際輸送に関わる許認可の撤廃」、「輸送インフラ相互性の強化」の3分野において実質的な成果を上げる必要があると発言。

(4/26 大統領公式サイト)

#### ●習近平中国国家主席と会談(4/25, 北京)

ルカシェンコ大統領の発言要旨:

・中国が推進するイニシアチブに関してベラルーシは一切疑いをもっておらず、今後もベラルーシからの支援を期待して頂きたいし、中国からの支援も確信している。

・昨年迎えた改革開放40周年および今年迎える建国70周年に対する祝賀

・2018年の両国間貿易高は45億 USD を超えたことやベラルーシの対中国食品輸出量が昨年対比4.5倍も拡大したことに対する謝意

習近平国家主席の発言要旨:

・一帯一路の開始から6年間で両国間における協業は成功している。

・特に「巨石」工業団地は二国間協業の最たる例である。

・ベラルーシおよび中国国民の幸福に向け、両国間関係を深化拡大する為、一帯一路の枠組みを通じて共に協業機会を有効活用していく心構えがある。

(4/25 大統領公式サイト)

#### ●ミルジョーエフ・ウズベキスタン大統領と会談(4/25, 北京)

ルカシェンコ大統領からは、ベラルーシの技術をウズベキスタンとその国民の為に転換したいこと、また協業にむけたロードマップの実現に向け既に155もの行事を行ったこと、両国間貿易高が1年で20%伸びたことを発言。「ミ」大統領からは、協業を開始したばかりにもかかわらず、すでに成果が目に見えていと発言。

(4/25 大統領公式サイト)

#### ●プーチン露大統領と電話協議(4/22)

本電話協議はロシア側のイニシアチブで行われた。二国間関係の現状や協業発展に向けた見通し、国際情勢について協議なされた。

(4/22 大統領公式サイト)

#### ●新天皇陛下の即位に際する祝電

祝電の主な内容は以下の通り。

・新陛下のお助けにより日本・ベラルーシ関係が両国にとってよい形で発展していく、と確信している。

・両国民のため、安全かつ揺るぎない未来の確立に向け、両国間関係の見通しや国際問題につき議論するための交流を新陛下とともに構築・継続できることを楽しみにしている。

(5/2 大統領公式サイト)

#### ●ウクライナ新大統領宛の当選に際する祝電

祝電の主な内容は以下の通り。

・共通の歴史によって培われた兄弟国としてのつながりがベラルーシ・ウクライナ両国間の基礎となっている。

・ウクライナにとってベラルーシは、常に頼りになるパートナーであり、仲のよい隣人であり続ける。

・ゼレンスキー大統領の活動が、ウクライナの繁栄と平和の構築、国民の調和に繋がるであろう。

・「ゼ」大統領の健康とウクライナ国民の幸福に向けた施策実現を祈る。

(4/22 大統領公式サイト)

#### 【内政】

●ベラルーシ・ジャーナリスト委員会:「ベラルーシ政府はジャーナリストの権利保護に関する義務履行を怠っている。」

5月3日、ミンスクにて開催された国際特別展覧会「ベラルーシにおけるマスメディア」にて、ベラルーシジャーナリスト委員会のオレグ・アゲエフ副会長が、ベラルーシ政府によるジャーナリスト権利保護に関する義務履行の怠慢を指摘。同氏によれば、多くのジャーナリスト、弁護士が報道妨害に関する起訴を行っ

たにも関わらず、最高裁判所に報道妨害に関する件数を問い合わせたところ「0」であり、適切に処理されていないとのこと。

(5/3 ベラパン通信)

### ●年金支給額の引き上げ

5月1日、ベラルーシにおける年金支給額が引き上げされた。引き上げの背景は、平均給与の増加によるもの。2018年には2度(8月および11月)に支給額引き上げが行われた。

(5/1 ベラパン通信)

## 【外交】

### ●駐ベラルーシ・ロシア大使の解任(4/30)

公認にはメゼンツェフ元イルクーツク州知事が決定  
(4/30 ベラパン通信)

### ●渡辺博道復興大臣(日本・ベラルーシ友好議員連盟会長)とドロフェーエヴァ議会代表者院(下院)議員との会談

会談では、両国間議会間対話強化の可能性について議論が交わされた他、議会間協力の展望を議論するため、また原発事故からの復旧に関するベラルーシの経験を学ぶため、日本の議員団によるベラルーシ訪問の実施についても扱われた。

ベラルーシの功労女優であるドロフェーエヴァ議員率いるベラルーシの芸術家一行は、「日本におけるベラルーシ文化デー」に参加して2011年の震災による東北地方の被災者の追悼コンサートを行った。この他、イエシン駐日大使が宮城県名取市長及び同市住民と共に被災者の慰霊碑に献花した。

(4/20 ベラパン通信)

## 経済

### 【国内経済】

#### ●ミンスク国際空港の第2滑走路の開設

5月3日ミンスク国際空港第2滑走路の開設セレモニーにルカシェンコ大統領、アブラメンコ運輸交通大臣等が参加。ルカシェンコ大統領より、建設予算600

百万USDに対し、3分の1の金額で完成させたことを大いにたたえる発言あり。

(5/3 大統領公式サイト)

### ●ルカシェンコ大統領がミンスクと「巨石」を結ぶ鉄道支線の敷設を指示

ルカシェンコ大統領はミンスク国際空港第2滑走路の開設セレモニーの場で、空港と「巨石」を結ぶ鉄道支線の敷設を指示した。同セレモニーに出席したアブラメンコ運輸交通大臣は、第2滑走路に加え、旧滑走路近代化を予定していることを表明。旧滑走路近代化案件の予算額はおよそ90百万ドル、想定工期は2年～3年とされる。

(5/3 ベラパン通信)

### ●ナフタン2018年純利益は約58%減

ベラルーシ石油精製大手ナフタンの2018年純利益は4.56百万ルーブル。同社の2017年純利益は10.77百万ルーブルであり、約58%の悪化。なお、モズィール製油所の純利益も2017年比大幅(38.5倍)に悪化している。

(5/2 ベラパン通信)

### ●ベルレスブムプロム、第一四半期、輸出拡大

紙パルプ分野におけるコンツェルンベルレスブムプロムの2019年第一四半期の輸出量は、昨年同時期対比約9%増加。同コンツェルンは52カ国に輸出をしている。主な輸出国はロシア、ウクライナ、カザフスタンといった近隣諸国に加え、欧州諸国、中国となる。近年は、アラブ首長国連邦、モンゴルやモロッコ、スイスへの輸出が拡大している。

(5/2 ベラパン通信)

## 【対外経済】

### ●ロシア産石油の質、回復

5月2日、油井管「ドルジバ(友好)」経由でベラルーシに輸送されるロシア産石油の品質が回復したと、ベルネフチェヒム広報部が通知。4月中旬より同油井管経由で輸入するロシア産石油の品質が急激に悪

化していた。品質悪化を受け、ベラルーシはウクライナやポーランド、バルト諸国への輸出を一時的に中断した。ベラルーシの売上機会損失額は約100百万ドルと算定されている。

(5/2 ベラパン通信)

**●ロシア首相、ベラルーシからの商品別の食品輸入制限を取り下げる方針を通知。**

ロシアは2018年にベラルーシからの乳製品輸入において製品別に輸入制限をかけていた。2019年4月30日エレバンにて開催された政府間評議会会合にてロシアのメドヴェージェフ首相は製品別輸入制限から各販売業者への検査へと移行する方針を表明した。

(4月30日 ベラパン通信)

(了)